



TKSだより

第30号

つばさ

富山県立高岡高等支援学校
令和2年3月3日発行

「自立と自律」

校長 清水 克人

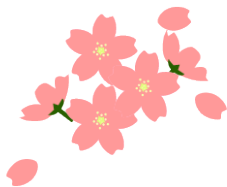
卒業生の皆さん並びに保護者の皆様、ご卒業、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

今年度は、令和時代への変わり目を契機に、気持ちを新たにされた方も多かったのではないのでしょうか。何かにつけ「平成から令和へ」というフレーズが聞かれましたが、教育現場では、一貫した教育目標の下、学習指導や進路指導、生徒指導等にワンチームで取り組んできました。

「自立した職業人になる」ことは大きな目標ですが、「自律した行動ができる人になる」ことはとても重要です。「自律」とは、価値観・信条・理念・哲学といった“内的な”要素による独り立ちです。自らの規範やルールを内にもち、それにしたがって判断・行動する状態のことです。社会とマッチした正しい「律」をもつことで、自制心や向上心を高め、人間としてより成長することができるでしょう。

卒業生のみなさんには、これからの激動の時代を力強く生きるために、受け身にならず自信をもって、主体的・能動的に生きていってほしいと願っています。また、いろいろな場面で問題意識をもち、自分の力で解決したり、周りの支援を上手に受けたりしながら、様々な経験を積み重ねていくことも大切です。失敗は失敗ではない、次の成功のために必要な経験であると信じ、笑顔で乗り越えていってください。応援しています。

地域の皆さま、地元企業の皆さまには、日頃より大変お世話になり、ありがとうございます。今後とも卒業生や在校生への応援をよろしくお願いいたします。



「卒業によせて」

3学年主任 俵 圭子

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この三年間で、いろいろな経験から「自分の気持ちをきちんと伝えること」、「状況を判断して行動すること」など、多くのことを習得することができましたね。

4月から始まる新しい生活を控え、不安と期待の入り交じった緊張感を感じている人もいます。

会社は、人と協調しながら、目的に向かって一体となる組織です。そして、会社には年齢、性格、思考、価値観などが異なる様々な人がおられます。そのような人達とかかわるときは、自分を成長させるチャンスです。同じような人ばかりが周りにいる環境では、人は成長しにくいと言われます。成長にとって大切な「気付き」があまりないからです。

「人と協調する」というと、自分の個性が発揮できないと思う人もいます。戦国時代の武将、毛利元就の「三矢の教え」は有名で、「1本の矢は折れやすいが3本の矢を束にすると折れない。力を合わせる大切さ、それぞれがもっている力を合わせてより大きい力となって事を成す。」という話です。自分の個性を潰すことではなく、自分のことばかり考えるのでもなく、お互いに認め合い、許し合って生きていくなれば、団結力が生まれ、自分の個性をより発揮できたりするようになるということです。そして、それはとても心強いことだと思います。

これからは、それぞれの夢に向かって歩いていきます。全員がそれぞれ、与えられた場所で役割を果たしていきます。学校ではいつも応援しています。勇気をもって進んでいきましょう。その姿が、ご家族、会社の方、周りの方々への感謝の形だと思います。

受賞者報告

・SONPOパラリンアートカップ2019 損保ジャパン日本興亜賞富山県賞	水野 佳乃子 さん
・第26回全国特別支援学校文化祭造形・美術部門 優秀賞	坂田 真由美 さん
・室井滋のしげちゃんおはなしラジオ感想文・図画コンクール FM とやま賞	坂田 真由美 さん
・富山ものづくり技能奨励賞	坂田 真由美 さん
・図書館活動表彰	寺井 康平 さん

令和2年度当初の行事予定 4月 8日(水) 第1学期始業式 入学式
27日(月) 学習参観 PTA総会 学年懇談会、携帯電話安全教室

今年度、3つの学校アクションプラン(重点課題)を設定し、目標達成に向け取り組みました。

重点課題	達成目標	評価
1 学習活動：各教科等の学習指導の充実	① シラバスの授業での活用 年間5回以上活用した教員の割合(80%以上) 100% ② シラバスに対する生徒の意識の向上 シラバスを有効だと答えた生徒の割合(70%以上) 90%	A
取組状況	① シラバスの活用に関する教員へのアンケートの結果、全教員がシラバスに基づいた授業を行い、シラバスを提示して学習のめあてや内容について説明していました。生徒が学習の見通しをもちやすくなったと実感している教員は80%を超えました。また、シラバスを学習ファイルに貼り、いつでも確認できるようにしたり、単元ごとにさらに分かりやすい表現にして提示したりして活用方法を工夫していることが分かりました。 ② 生徒へのアンケートの結果、学習のめあてや内容が分かったという生徒は91%で、学習への見通しがもちやすくなったという生徒も79%でした。生徒からは、「次にどんな学習をするのか分かる」「中学校にはなかった」「いろいろな授業が分かりやすい」「この学校の授業は楽しい」という意見が聞かれました。	
今後の取組	・生徒からも要望があった作業学習のシラバスを完成させます。また、生徒の意見を取り入れ、文字を大きくしたり、ふりがなやページ数を付けたりして使いやすいシラバスに改善します。 ・生徒が意欲的に学習に取り組むために、授業改善に引き続き取り組みます。	
2 生徒指導：規範意識や自己指導能力を育てるための指導の充実	「学校生活ハンドブック」に関する話し合いに参加する生徒数 (全校生徒の約3分の1以上) ・話し合いへの参加生徒数11名 (全校生徒の20%) ・アンケート形式で意見を出した生徒数33名(全校生徒の60%)	B
取組状況	・夏季休業中の話し合いは参加生徒が4名と少なかったため、「学校生活ハンドブック」の見直しについての全校生徒の意見を効果的に回収する方法について話し合い、アンケート(提出は任意)を実施することにしました。 ・生徒代表が中心となりホームルームの時間等を使って、「学校生活ハンドブック」の内容やマナーに関するアンケートの趣旨を説明し、実施、回収を行い、33名の生徒から53件の意見が集まりました。昨年に続き、生徒の主体的な活動により「学校生活ハンドブック」の内容の一部を見直しました。	
今後の取組	・「生徒心得」や身だしなみ検査を意識する生徒が増え、指導を要する行動(32件→23件)が減少しました。自分たちで作ったルールを守ろうとする規範意識の高まりが感じられます。今後もこの取組を継続し、生徒会活動の中に位置付けます。 ・話し合いで自分の意見を伝えることが苦手な生徒が多い中、ホームルームで呼び掛け、アンケート形式による意見収集で多数の意見が出たことは、効果的な取組でした。今後も生徒が意見を出しやすい仕組みづくりを工夫します。	
3 進路指導：生徒や保護者が見通しをもち主体的に関わる進路指導	① 保護者の進路関連行事への参加率(70%) 78.2% ② 「生徒用進路の手引き」の授業等での活用(10回以上) 20回	A
取組状況	① 8月のPTA進路学習会(参加率63.6%)、10月のPTA学習会&座談会(同49.1%)、7月と12月の進路保護者懇談会(同100%)において、「生徒用進路の手引き(以下手引き)」を活用しながら就労までの流れや保護者の参画の機会等を説明しました。機会をとらえて「手引き」を活用することで、進路学習のためのツールとして保護者に認識されたと感じます。 ② 「手引き」は各学年の「職業」の授業のテキストとして、「総合的な学習/探究の時間」における進路学習の補助資料として全ページを活用しました。生徒は「手引き」について、「職業」の授業で常に使用するものであると認識しています。	
今後の取組	・保護者が参加する進路関連行事において、次年度も継続して「手引き」を使用することで、保護者に印象付け、保護者にとっても身近なテキストとなるように活用を進めていきます。 ・「教員用進路の手引き」の掲載内容を見直すことで、進路指導に関する業務改善を図りたいと考えています。	

学校評価アンケートに、ご協力いただきありがとうございました。全11項目で「かなり思う」「やや思う」との回答が90%以上であり、学校の教育活動に概ね満足いただいていると捉えています。今後も保護者の皆様の忌憚のないご意見をお聞かせいただきますようお願いいたします。